

# 第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

愛知教育大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構



## (I) 教育に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### ① 教育の成果に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、4項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「新卒者の教員合格率がトップレベルにある現在の状況を保持するよう努め、愛知県内はもとより、他県への就職を積極的に勧め、教員就職率の一層の向上を図る」について、教員就職相談員3名を3か月配置し、教員採用試験に向けた指導を行い、さらに教員採用試験不合格者に対し、「教採再チャレンジ」ガイダンスを実施してアドバイスを行っており、その結果、正規採用者の教員就職率が平成18年度54.8%、平成19年度52.8%と、高い水準を維持していることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画「教育科学と教科学（教科内容学と教科教育学で構成）の充実と相互の連携を進め、教科学と教科に関する専門科目との連携・相互補完を確立する」について、教科教育学と教科専門科目を統合した教員養成大学における専門科目の構築を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

- 中期計画で「多様な型の教員養成を行う」としていることについて、大学卒業者のための小学校教員免許取得コースと6年一貫教員養成コースを設置し、教員養成の充実化と多様化を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

## ② 教育内容等に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(8項目)のうち、1項目が「良好」、6項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、7項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

### <特記すべき点>

#### (特色ある点)

- 中期目標で「広く教育に関わる課題に関心のある優れた学生を受け入れる」としていることについて、県内高等学校を中心に「高校訪問プロジェクト」を実施して大学に対する意見・要望を集約していること、編入学制度を見直し、養護教諭養成課程で編入生を受け入れていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「担当教員による自らの教育方法の改善を基本とし、教育責任組織レベルを含めたFD活動の充実を図る」について、平成20、21年度において、学生による授業改善アンケートを軸にした教員の自己評価、授業工夫事例の共有、全学FD等を通じて、教育方法の改善を教育責任単位レベルと全学レベルで行い、配付資料、機器使用、授業準備等の面で授業改善が大きく進展していることは、特色ある取組であると判断される。

### (平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況)

- 平成16～19年度の評価において、  
中期計画「担当教員による自らの教育方法の改善を基本とし、教育責任組織レベルを含めたFD活動の充実を図る」について、教育方法の改善取組事例の検証、教育目標を中心としたグレード・ポイント・アベレージ(GPA)値を資料にした検討を行っているものの、FD活動の充実を図るという点では十分に進捗しているとはいえないことから、改善することが望まれると指摘したところである。

平成 20、21 年度においては、学生のアンケート結果に基づいて各教員が自己評価を行い授業改善に取り組むとともに、教育責任単位でのファカルティ・ディベロップメント (FD) 及び全学レベルの FD を実施していることから、当該中期計画に照らして、改善されていると判断された。

#### (顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「個々の授業の教育目標及び教育内容と本学の教育目標とが相互に的確な関係となっていることを恒常的に自己点検する」について、平成 16～19 年度の評価においては、報告書及び学生からの意見聴取内容からその成果を読み取ることが困難であり、取組が不十分と判断された点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、担当教員が自己点検を恒常的に実施できるよう、FD を実施し、教科それぞれの目標に沿って担当者間で授業目標を設定し、平成 21 年度には、教職実践演習における 4 年次までの学習内容と獲得水準を確認できるよう図られるなど改善されており、「おおむね良好」となった。
- 中期計画「担当教員による自らの教育方法の改善を基本とし、教育責任組織レベルを含めた FD 活動の充実を図る」について、平成 16～19 年度の評価においては、教育方法の改善取組事例の検証、教育目標を中心としたグレード・ポイント・アベレージ (GPA) 値を資料にした検討を行っているものの、FD 活動の充実を図るという点では十分に進捗しているとはいえなかった点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては改善されており、「おおむね良好」となった。(「平成 16～19 年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況」参照)
- 中期計画「授業改善を目的とした授業ごとの担当教員の自己評価、学生による授業評価を実施する」について、平成 16～19 年度の評価においては、全教員に達成度の検証と教育目標の明記を要請しているにとどまっており、学生による授業評価については実施が確認できなかった点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、平成 17 年度以降 3 年サイクルで学生による授業評価を実施し、平成 21 年度には 2 サイクル目に入っていると同時に、担当教員から提出のあった担当授業についての自己評価書は、愛知教育大学のウェブサイトに掲載されるとともに、愛知教育大学として達成度の検証を行っていることから改善されており、「おおむね良好」となった。
- 中期計画「近隣大学の大学院との単位互換制度の導入を図る」について、平成 16～19 年度の評価においては、単位互換制度について、未実施の点で「不十分」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、豊橋技術科学大学大学院と単位互換協定を締結し、平成 22 年度 4 月から単位互換を開始することとしていることから改善されており、「おおむね良好」となった。

### ③ 教育の実施体制等に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期目標「学生が本学（主として附属学校）及び協力校において、十分な教育実習を遂行できるよう、実践的・臨床的研究と連携を取りながら教育指導体制の改善を進めていく。実践的指導力を育成するため教育実習等の一層の充実を図る」について、校長経験者を特任講師として採用して、実習生の取組課題を教育現場から吟味・指導し、教育実習の質の向上を図っていることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画で「学部・大学院教育に関わる研究・開発・研修に専念できる教員で構成されるセンターを設置する」としていることについて、平成 16 年度に、主任研究員 2 名及び研究員 3 名のスタッフで構成される教育創造センターを設置し、教育目標・内容・方法や実施体制の調査研究を行い、学部・大学院の教育力を評価及び社会連携と連動させ、システムティックに改善・向上を図っていることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画で「授業内容・方法の改善活動の一層の充実を図る」としていることについて、教務企画委員会と学生支援委員会に学生代表を参加させ、企画・運営への学生の主体的参画を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

### ④ 学生への支援に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

## <特記すべき点>

### (特色ある点)

- 中期計画「留学生への日本語チューター制の充実及びチームチューター制の導入を図る」について、専門分野チューター及び日本語チューターを配置するチームチューター制を導入して、留学生の学習を支援していることは、特色ある取組であると判断される。

## (Ⅱ) 研究に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

#### **【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

#### **【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(2項目)のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### ① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

#### **【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(1項目)が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

## <特記すべき点>

### (優れた点)

- 中期計画で「初等・中等教育及び社会教育の理念・内容・方法に関する領域について重点的に取り組み、創造的な研究成果を生み出すことを重視する」としていることについて、委託事業「算数・数学科教師の机間指導力向上のためのプログラム研究」、「社会科におけるフィールドワーク指導技術育成プログラムの研究」及び「創造的授

業を実践する教員研修のあり方」といった研究成果を上げていることは、優れていると判断される。

- 中期計画で「研究成果を基に教育の個別的・具体的内容やそれを児童生徒に提示するための教材開発などを含む教科内容学の展開を図る」としていることについて、教材開発に係わる研究成果が公開講座等に多数活かされ、特に平成 19 年度小・中・高等学校用教科書執筆において、教員が執筆者として全国でもトップクラスの活躍をしていることは、優れていると判断される。

### (特色ある点)

- 中期計画で「大学教員の研究成果は、一般に専門書や学術論文などの形で公表され社会に還元される。これらの成果は、他教育機関や企業と連絡を図りながら研修等の機会を利用して普及させるとともに、刊行物による普及活動を推進する」としていることについて、大学出版会による出版事業において、特に平成 17 年から 19 冊を刊行し大学独自の研究成果発表の機会を拡充していることは、特色ある取組であると判断される。

## ② 研究実施体制等の整備に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

### <特記すべき点>

### (特色ある点)

- 中期計画で「基礎研究を推進するとともに新しい学際領域の研究課題にも適切に対応できるプロジェクトを組織し、学外研究者との連携・交流を推進する」としていることについて、平成 19 年度に「摩擦の科学」プロジェクト研究の一環として国際学会を主催し、基礎研究を推進するとともに、新しい学際領域の研究にも優れた実績を上げていることは、特色ある取組であると判断される。

## (Ⅲ) その他の目標

### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

## 1. 評価結果及び判断理由

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

## 2. 各中期目標の達成状況

### ① 社会との連携、国際交流等に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期目標「公開講座・シンポジウム等を積極的に実施し、拓かれた大学を目指し、地域社会の要請に応える」について、平成9年度から進めてきた「訪問科学実験」の活動が、平成17年度に「科学教育出前授業等による学生自立支援事業」として、特色ある大学教育プログラムに採択され、平成18年度には小柴昌俊科学教育賞の優秀賞を受賞していること、さらに「外国人児童生徒のための教材開発と学習支援」が、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択されていることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画で「地域連携支援室を中核として、社会との連携・協力を組織的に推進する。具体的には、情報ネットワーク等を利用して、本学が保有する人的リソースや研究内容に関する情報を広く公開し、研究成果を社会に還元していく。」としていることについて、大学の特性を活かした地域貢献として、障害児治療教育センターにおける相談、教育実践総合センターにおける電子メールやFAXによるいじめ相談、カウンセリング、箱庭療法、プレイセラピー等の技法を用いた心理療法等を行っていることは、特色ある取組であると判断される。